



学生からのメッセージ

地震が与えたもの

松野 浩明 (福岡歯科大学 第2学年)

4月14日21時26分、突然携帯電話から聞いたことのない音が鳴り響きました。何が起きたかもわからず、とりあえず画面を見てみると、小さい頃から見なれた「熊本」という文字と今まで見たことのない「震度7」という文字を同時に見て理解が追いつかないでいる間に揺れは福岡まで来ました。



私の実家は熊本市内のマンションで、震源地からそう遠くないところにありました。両親とも連絡が取れるようになり家の写真を送ってもらうと、家具はすべて倒れ、食器は割れ、子ども時代に住んでいた家とは別物になっていました。

二週間後、実家に手伝いに帰り、実際に被害を見て改めて地震の恐ろしさを感じました。しかし、良いこともありました。家を片付けるにつれ家族の絆も深まり、さらに仲の良い家族になりました。以前は安心して大学に通えるという幸せを当然のように考えていました。今はこの環境を与えてくれた両親に感謝しています。

最後に、今回の地震で亡くなられた方のご冥福をお祈りするとともに、熊本県、大分県の日も早い復興を願っております。

保護者からのメッセージ

一日二日の努力

村上 司 (父兄後援会理事)

私は北九州小倉で開業して三十年、地元のお客さんの声を大切にしながら歯科医療に取り組んでまいりました。本年度から父兄後援会の理事を務めさせて頂いております。後援会、大学関係の皆様と会の為に頑張っていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。



さて、先日、福岡歯科大の国家試験の合格者数を聞き、近年の合格が難しいということを実感しました。現在の制度の難しい状況の中、基礎勉強を大切にしながら、いかにしたら国家試験に合格できるのか？先生方も頭を悩まされていることと存じます。父兄後援会も全面的にバックアップしていきますので、学生の皆さんは一日二日の努力が明日へつながる、そして国家試験合格へつながらと信じて勉強に励んで頂きたいと思えます。只、国家試験合格がゴールではありません、その日から歯科医師としてのスタートです。我々と共に歯科医療に貢献してくれることを望みます。

最後になりましたが、この度、熊本大分の大震災で被災されました皆様には、謹んでお見舞い申し上げますと共に、早く平常の生活が出来ますよう心よりお祈り申し上げます。

New Sophia コラム

「無用の用」

都市伝説か事実か知りませんが、かつて大学の定期試験でカレーのレシピを書いて単位がもらえたというエピソードがあります。有名な話です。ご存知でしょうか。この話に対して「古き良き時代」と懐かしむ向きもございしますが、皆さまはどのように感じられますでしょうか。本学の新入生研修会の際、わたしは1年生に「他者に敬意を払える大人になってください」と話します。同輩、教師、将来的には患者さん、そして知そのものへ。大学は知の共同体であり大学生になるということはその共同体の一員になることだから、こののですが、そんなに高尚な話ではなくて、ひょう窃や無断転用などは厳禁だ、という程度の意味です。では、教員ならどうでしょう？わたしは思うに学問への敬意でありましょう。畏敬と云っても構いません。諭えるなら、授業をし試験をし単位を認定する場合に教員はその学問の代理人を勤めているだけだ、くらいの気持ちが必要でしょう。単位の与奪を個人的な好みで決めるといっは以ての外だと思っております。認証評価や学生授業アンケートも大切ですが、でもなにより重要なのは学問への敬意だなと考えるわたしはあまりに書きすぎていますでしょうか？

(永嶋哲也)